

翔

百万石蝶談会 No. 153
December 2001

石川県の低地および能登丘陵周辺のゼフィルス

2001年の輪島市および鳳至郡門前町とその周辺におけるゼフィルス

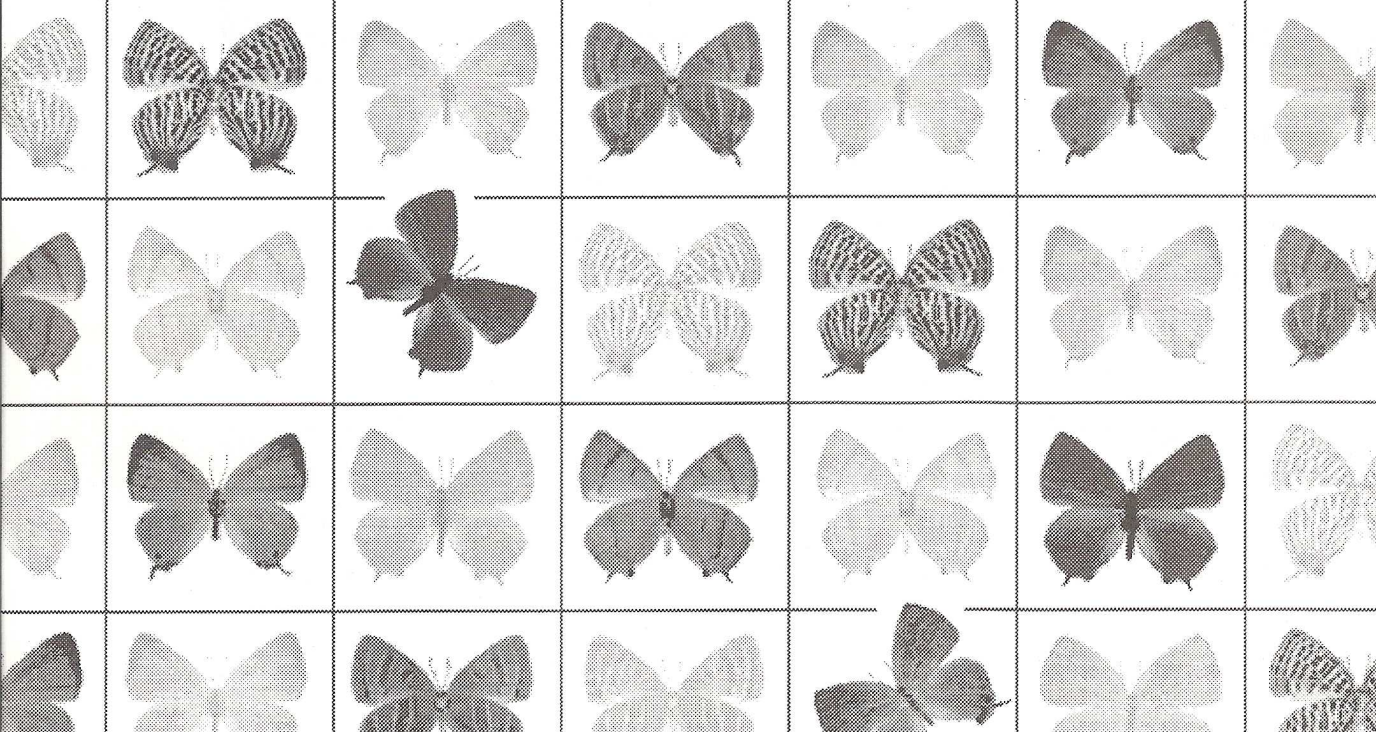
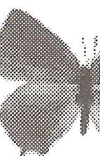
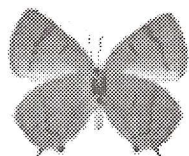
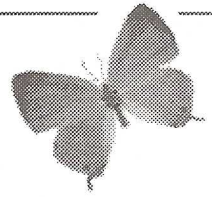
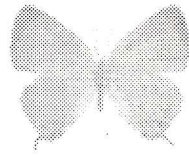
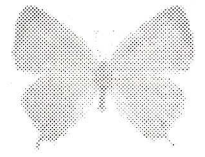
石川郡美川町でアカシジミを目撃

白峰村市ノ瀬でムモンアカシジミを目撃

石川県小松市の雑木林で目撃したチョウ

自宅の庭でウラナミアカシジミを観察

ニューヨークへ思いを寄せる

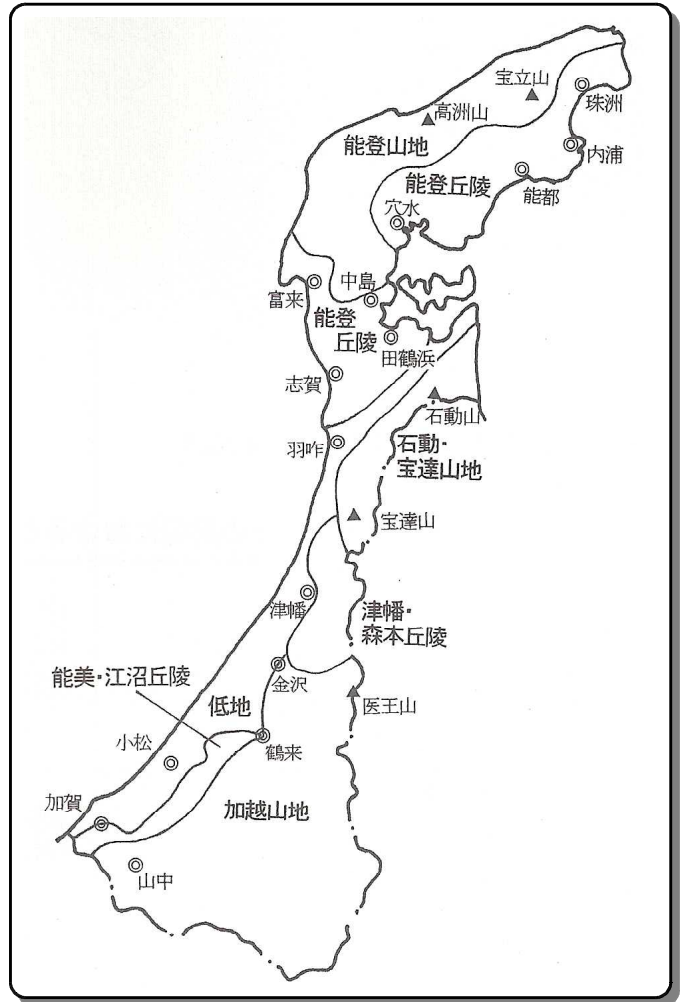


石川県の低地および能登丘陵周辺のゼフィルス

松井正人

これまで石川県のゼフィルス調査は、能登山地、石動・宝達山地、加越山地などの山地や、津幡・森本丘陵、能美・江沼丘陵などの丘陵地で主に行われ、能登丘陵や低地では、ミドリシジミを除けば必ずしも充分には行われていなかった。2001年は、春から虫が多産しゼフィルスも多産したことから、能登丘陵や低地を中心にゼフィルス調査を行い、これまで記録の無かった地域から、アカシジミ、ウラナミアカシジミ、ミズイロオナガシジミ、オオミドリシジミを確認したので報告する。

採集・目撃年は全て「2001年」、採集・目撃記録者は全て「松井正人」であり、記述は省略した。



■ウラナミアカシジミ

これまでは、津幡・森本丘陵、能美・江沼丘陵および加越山地から記録されていたが、記録地それほど多くない。今回は加賀市、小松市の低地とその周辺から採集・目撃することができたが、能登丘陵からは全く観察することができなかった。

5月6日	加賀市永井	3 幼採集	5月6日	加賀市小塩辻	1 幼採集
5月6日	加賀市瀬越	1 幼採集	5月6日	加賀市芝山	2 幼採集
6月2日	加賀市上野	1♂採集3頭目撃	5月4日	小松市那谷	5 幼採集
5月4日	加賀市栄谷	2 幼採集	6月2日	小松市那谷	1♂採集1頭目撃
6月2日	加賀市栄谷	1♀採集6頭目撃	6月2日	小松市四丁	1♀採集

■アカシジミ

これまでは、能登丘陵を除く山地や丘陵地で広く記録されていた。今回は、加賀市や小松市の低地、および能登丘陵で採集・目撃することができたので、石川県に広く分布している事が予想される。

6月9日	江沼郡山中町菅生谷	1頭目撃	6月17日	羽咋郡志賀町五里峠	1♂採集5頭目撃
6月2日	加賀市吉崎	4頭目撃	6月17日	羽咋郡富来町地頭	2頭目撃
6月2日	加賀市黒崎	3頭目撃	6月17日	鹿島郡田鶴浜町赤蔵山	2♀採集2頭目撃
6月2日	加賀市栄谷	2頭採集2頭目撃	6月23日	鹿島郡中島町別所岳	1頭目撃
6月2日	加賀市黒崎時代村	1頭目撃	7月1日	鳳至郡能都町武連	1頭目撃
6月2日	小松市四丁	1頭目撃	7月1日	鳳至郡能都町鶴町	2♀採集
6月3日	河北郡津幡町能瀬	2頭目撃	7月1日	珠洲郡内浦町駒渡	3頭採集1頭目撃
6月17日	羽咋郡志賀町宿女	1♀採集	7月1日	珠洲市宝立是久	1♂1♀採集
6月17日	羽咋郡志賀町奥山峠	1♂1♀採集			

■ミズイロオナガシジミ

アカシジミと同じく、能登丘陵を除く山地や丘陵地で記録されていた。今回は、高松町の低地や能登丘陵各地で採集・目撃することができたので、石川県に広く分布している事が予想される。

6月16日	河北郡高松町中沼	1頭採集1頭目撃	6月17日	鹿島郡田鶴浜町赤蔵山	1頭採集
6月17日	羽咋市国立能登青年の家	1頭採集	6月23日	羽咋郡富来町六実	1頭目撃
6月16日	羽咋郡志雄町針山	2頭採集10頭目撃	6月23日	羽咋郡富来町大西	1頭採集
6月17日	羽咋郡志賀町宿女	1頭目撃	7月1日	鳳至郡能都町鶴町	2頭採集2頭目撃
6月17日	羽咋郡志賀町奥山峠	1頭目撃	7月1日	珠洲郡内浦町駒渡	1頭採集
6月17日	羽咋郡志賀町五里峠	2頭採集10頭目撃	7月1日	珠洲市宝立是久	1頭採集

■オオミドリシジミ

低地を除く広い範囲に分布していることが予想されるが、人気が無いのか記録が少ない種である。高松町のような低地からの記録はほとんど無く、能登丘陵からの記録は全く無かった。

6月16日	河北郡高松町中沼	1♂採集	7月1日	珠洲郡内浦町駒渡	4♂採集2♂目撃
7月1日	鳳至郡穴水町端鳳	1♀採集			

2001年の輪島市および鳳至郡門前町とその周辺におけるゼフィルス

日吉宏朗・日吉南賀子・日吉芳朗

2001年には、石川県輪島市および鳳至郡門前町とその周辺のいくつかの地で、これまで確認されていなかったり、確認されていても少数でしかなかったゼフィルスを、比較的多数採集・目撃することができた。

◆アカシジミ

輪島市におけるアカシジミの記録は、1971年の町野町での時国健太郎氏の報告にさかのぼることができる（時国健太郎、1972）。しかし、その後は記録が途絶え、10年以上もたった1984、85年によく美谷町と高洲山で、天野勝広氏が採集・目撃された。以後、さらに10年以上を経た1996年に三井町と高洲山で天野勝広氏が（天野勝広、1997b）、1997年に高洲山で筆者の一人が（日吉芳朗、1997）、そして1998、99年に宝立山と鉢伏山で松井正人氏が（私信による）、採集・目撃されただけである。

ところが、本年になり輪島市鉢伏山、輪島市上山、門前町鬼屋、珠洲市宝立山と広い範囲で記録することができた。なお、門前町ではこれが初記録となる。

2001年6月17日	輪島市鉢伏山	1♀	日吉宏朗
2001年6月23日	輪島市鉢伏山	1♀	日吉宏朗
2001年7月5日	輪島市鉢伏山	1頭目撃	日吉南賀子
2001年6月26日	輪島市上山	1頭目撃	日吉宏朗
2001年6月28日	輪島市上山	2頭目撃	日吉宏朗
2001年6月18日	珠洲市宝立山	2♀	日吉宏朗・日吉芳朗
2001年7月4日	鳳至郡門前町鬼屋	1♀	日吉宏朗

◆ミズイロオナガシジミ

これまでの輪島市におけるミズイロオナガシジミの記録は、1996年に高洲山で天野勝弘氏が（天野勝広、1997a）、1998、99年に宝立山と鉢伏山で松井正人氏が（私信による）、各1頭を採集されたのみであった。しかし本年、輪島市上山、佐比野山、高洲山、門前町サビヤ山、道下、西円山で総数にしてかなりの数を採集することができた。門前町ではこれも初記録である。

2001年6月26日	輪島市上山	3頭	日吉宏朗
2001年6月28日	輪島市上山	5頭	日吉宏朗
2001年7月5日	輪島市上山	1頭	日吉宏朗
2001年7月5日	輪島市高洲山	1頭	日吉宏朗
2001年7月8日	輪島市佐比野山	3頭	日吉宏朗

2001年6月27日	鳳至郡門前町サビヤ山	1頭	日吉宏朗
2001年6月28日	鳳至郡門前町道下	1頭	日吉宏朗
2001年7月3日	鳳至郡門前町道下	2頭	日吉宏朗
2001年7月9日	鳳至郡門前町西円山	1頭	日吉宏朗

◆ミドリシジミ

輪島市では、1998年に初めて鉢伏山で記録されたが（日吉芳朗、2000）、その後目撃さえできなかつた。一方、中川秀幸・大野豊・中居昭信（1977）に「門前では、柳林の中にハンノキが混在するので、ミドリシジミなどが多い。」の記述があるもののその詳細は不明であり、松井正人（2000）によれば、門前町では未記録となっている。そこで、昨年未と本年の初めに輪島市と門前町で採卵を試みたところ、総計20個をこえる卵を得ることができた。

しかし、採卵地点のハンノキが、今夏に大発生したマイマイガの幼虫に食い荒らされたためか、この地点での成虫の確認はできなかつた。ところが、門前町鬼屋で数頭を採集することができた。これらも門前町での初記録となった。

2000年11月19日	輪島市鉢伏山	2卵	日吉宏朗
2000年11月25日	輪島市鉢伏山	7卵	日吉宏朗
2001年4月1日	輪島市三井市ノ坂	1卵	日吉宏朗
2001年3月17日	鳳至郡門前町中田	14卵	日吉宏朗
2001年7月3日	鳳至郡門前町鬼屋	2♂1♀	日吉宏朗
2001年7月4日	鳳至郡門前町鬼屋	3♂1♀	日吉宏朗
2001年7月8日	鳳至郡門前町鬼屋	3♂2♀	日吉宏朗・日吉南賀子

11月25日の7卵からは6月5日と6日に2♂が、3月17日の14卵からは6月13日から23日にかけて2♂6♀が羽化した。

◆オオミドリシジミ

昨年、輪島市佐比野山で初めてオオミドリシジミ1♂を採集したが（日吉宏朗・日吉芳朗・日吉南賀子、2001）、本年は同地点でかなりの数を採集することができた。また昨年、筆者らとしては初めて高洲山で1♂を採集したが、本年は数頭を得ることができた。

2001年5月5日	輪島市佐比野山	2幼	日吉宏朗・松井正人
2001年6月24日	輪島市佐比野山	2♀	日吉宏朗
2001年6月26日	輪島市佐比野山	2♀	日吉宏朗
2001年6月27日	輪島市佐比野山	1♂	日吉南賀子
2001年6月28日	輪島市佐比野山	3♀	日吉宏朗

2001年7月1日	輪島市佐比野山	4♂1♀	日吉芳朗・日吉南賀子
2001年7月3日	輪島市佐比野山	1♀	日吉宏朗
2001年7月5日	輪島市佐比野山	1♀	日吉宏朗
2001年7月8日	輪島市佐比野山	1♂	日吉芳朗
2001年6月28日	輪島市高洲山	3♂	日吉芳朗・日吉南賀子
2001年7月10日	輪島市高洲山	3♂	日吉芳朗・日吉南賀子

5月5日に採集した2幼虫からは6月5日に1♂が、13日に1♀が羽化した。

◆エゾミドリシジミ

本年、頂上より約200m離れた輪島市無線中継所前で1♀を採集し、筆者らとしては高洲山では初めての記録となった。エゾミドリシジミは、近くの鉢伏山周辺では普通にみられるものの、これまで高洲山からは天野勝広氏の1♂しか知られていなかった(天野勝広, 1997a)。

2001年7月9日 輪島市高洲山 1♀ 日吉南賀子

《参考文献》

天野勝広(1997a) 輪島市のゼフィルス2種. アカハネムシ(22):2-3.

天野勝広(1997b) 輪島のアカシジミ. アカハネムシ(22):3-5.

時国健太郎(1972) 蝶の新産地. とっくりばち(22・23):4.

中川秀幸・大野豊・中居昭信(1977) 能登半島のコムラサキ黒色型の分布. 昆虫と自然12(7):23-26.

日吉芳朗(1997) 輪島市での近年の蝶採集記録から. アカハネムシ(25):1-3.

日吉芳朗(2000) 輪島市での1998年の蝶採集記録から. アカハネムシ(31):1-5.

日吉宏朗・日吉芳朗・日吉南賀子(2001) 2000年に輪島市およびその周辺で採集したゼフィルス. 翔(150):1.

松井正人(2000) 市町村別蝶類記録一覧表. 翔(147):6-10.

《ひよし あつろう・ながこ・よしろう 〒928-0001 輪島市河井町1部64-1》

石川郡美川町でアカシジミを目撃

井村正行

金沢市の街中で飛翔しているアカシジミを時々目撃することがあったが、美川町の海岸に近い場所で目撃したので、報告しておく。場所は新興住宅地で、周りには植栽された常緑ガシ類以外に本種のホストと成りうるものはなく、何処で発生したのであろうか興味を持たれる。

2001年6月11日 石川県石川郡美川町鹿島 2頭目撃 井村正行

《いむら まさゆき 〒920-0211 金沢市湊1-128》

白峰村市ノ瀬でムモンアカシジミを目撃

竹谷 宏 二

白峰村市ノ瀬でムモンアカシジミを目撃したので報告する。市ノ瀬は、白山登山のメインルートの入りで、大きな駐車場が整備されている。この駐車場奥の吊り橋を渡った芝生園地の縁にオトコエシが咲いていて、この花上で吸蜜する個体を3m程の間隔で2頭目撃した。1頭はやや汚損、もう1頭は尾状突起が脱落した個体で、雌雄については分からなかった。なお、当日の天候は晴れ、目撃の時刻は15時30分頃だった。

ムモンアカシジミ 2001年9月1日 石川県石川郡白峰村市ノ瀬 2頭目撃 竹谷宏二
《たけたに こうじ 〒924-0815 松任市三浦町4-4-2》

石川県小松市の雑木林で目撃したチョウ

奥素 八子

すぐ近くの雑木林に、栗の花がたくさん咲いていまして、次々とチョウが飛来し蜜を吸う光景を目撃しました。運良く写真撮影できたものについて、松井正人さんに名前を確認していただきましたので、ご報告します。

ミズイロオナガシジミ	2001年6月5日	小松市八里台	1頭目撃	奥素八子
ウラナミアカシジミ	2001年6月9日	小松市八里台	1頭目撃	奥素八子
ツバメシジミ	2001年6月16日	小松市八里台	1♂1♀目撃	奥素八子
ウラギンシジミ	2001年6月16日	小松市八里台	1♂目撃	奥素八子
ヒオドシチョウ	2001年6月11日	小松市八里台	1頭目撃	奥素八子
オオウラギンスジヒョウモン	2001年6月16日	小松市八里台	1頭目撃	奥素八子

《おく すやこ 〒923-0056 小松市八里台12-3》

自宅の庭でウラナミアカシジミを観察

嵯峨井 淳郎

食草園と化した我が家の庭で、ウラナミアカシジミを観察した。我が家は、住宅地の中にあり、最も近い雑木林からでも500m以上離れているが、ゴマダラチョウやヒオドシチョウなどが発生したこともあり、コナラやミズナラもあるので、ここで発生した可能性が高い。

ウラナミアカシジミ 2000年6月25日 石川県金沢市額谷 1♂目撃 嵯峨井淳郎

《さがい じゅんろう 〒921-8145 金沢市額谷3-18-2》

ニューヨークへ思いを寄せる

久 慈 一 英

まさかという光景が展開された。2001年9月11日の夜、テレビでNHKのニュースをつけるとビルから煙が上がっている。マンハッタン Manhattanの貿易センタービルWorld Trade Centerではないか(図1)。どうしたのだろうと思う間もなく、もう一つのビルに航空機が突っ込んでいく瞬間を見た。6月下旬に金沢に帰ってくるまで、自分もマンハッタンに住んでいた。私は高校時代に硬式テニス部にいたが、その時のダブルスのペアがマンハッタンに勤務しており、在米中には大変世話になっていた。その親友が貿易センタービルに通勤していたのだ。手帳の住所は、82階とある。航空機が突っ込んだのはそのあたりではないか。少しして、突然ビルが崩壊した。絶望的な気分で朝方まで見ていたが、安否のことはわからなかった。

翌日、電子メールで本人から無事の知らせがあるまで本当に心配し、あのテロ事件は、私にとっても身近な事件となった。もちろん、貿易センタービルは、マンハッタン島の南端に位置し金融の中心であると同時に、上階が展望台レストランになっていて観光地としても有名である。ニューヨークに来れば多くの人が立ち寄る要所である。近くにはウオール街や自由の女神などもある。私の研究していたニューヨーク・プレスビテリアン病院New York-Presbyterian Hospitalは、全米でも2番目に古い由緒あるもので、少し離れたマンハッタン島中央部東側にあった。

悲しい事件が起こったが、ニューヨーク周辺は私にとって蝶採集の思い出の詰まった場



図1：自由の女神の立つリパティール島から見たマンハッタン南部。中央にひときわ高くそびえていた貿易センタービルはもうない・・・。

所であり、簡単に紹介しておくこととする。

まずニューヨーク州は比較的大きな州で、逆三角形になっていて、マンハッタン島を含む最南端のニューヨーク市に経済の中心がある。州都はアルバニーAlbanyといい、ほぼ州の中心部に位置する。米国は合衆国というとおろ、実は州という歴史的にはそれぞれが独立した国家であり、現在でも小さな国が集合体となったようなものである。であるから、合衆国としては国防と外交のみを大統領を中心とする大統領府が行い、上院、下院の議会が州の代表である。このため、いまだに州ごとの自治権は強く独立した法律を持っているので、税制など異なっている。車で移動すれば、ガソリンの値段は州ごとに違ふし、自分で給油できる州とできない州がある。消費税率も異なっている。交通規則も異なるし、自動車最高速度も違ふ。

ニューヨーク市City of New Yorkは大都会であるから、採集できる場所は限定されている。しかし、日本の東京都よりも自然が残っている。少し郊外では家が大きく、別荘地のようになっているからである。遠くからは木の生えた丘陵地に見える。独立を重んじる米国にあっては私有地のガードは堅いので、基本的に公園がよい。マンハッタンでもセントラルパークCentral Parkに行けば蝶がいる。マンハッタンから近くて良いところは、以前にも紹介したニューヨーク市北部のブロンクス動物園Bronks Zooの近くのファンコートランド公園Van Cortlandt Parkである。でも、変わった蝶を採ろうと思えば、少し遠くに行かなければならないのは仕方がない。よく行ったのは、隣のニュージャージー州やニューヨーク州のキャツキル公園Catskill Parkである。少し足をのばせばペンシルバニア州も良い。



図2：ニュージャージーの松の生える荒地。春には花が多く咲いて、コツバメの仲間やミヤマセセリの仲間など蝶が一斉に出てくる。夏は暑くて蝶も少なくなる。



図3：ヌマベニシジミの生息する沼地。クランベリーが自生し、白い花を咲かせている。蝶の発生期は、蚊とシカダニの多い時期でもあるから大変だ。虫除けスプレーは必携。

ニュージャージー州の南部は、砂丘地のような松の生えた砂地が広大に広がるが、この特殊な自然が変わった蝶の産地となっている（図2）。荒れ地は、春の短い時期に種々の花が開花し、独特の蝶はこの時期に発生する。コツバメの仲間やセセリチョウの仲間などが見られる。荒れ地の中には所々に湿地があって、ここにはシロスギAtlantic White Cedarというのが生えている。湿地にはジュースなどの原料として有名なクランベリーCranberryが栽培されており、所々に自生している（図3）。シロスギには珍種ヘッセルスギフタオミドリコツバメ*Callophrys hesseli hesseli*が樹上に住み、クランベリーの自生地にはヌマベニシジミ*Lycaena epixanthe phaedrus*が住んでいる。松を喰うコツバメ*Callophrys niphon niphon*もいる。海岸林のアカスギRed Cedarでは発生したスギフタオミドリコツバメ*Callophrys gryneus gryneus*を採った。針葉樹などというゲテモノ食が多いのは北米の特徴だろうか。日本には似た場所はないが、高山帯で蝶を探す感じで好きだった。唯一の問題は、ニューヨーク周辺はシカダニDeer Tickが多いということだ。シカダニというのは、鹿のダニだが、鹿は狩猟の為に結構沢山いるので、蝶の多いところには沢山いる。こいつは大きくなると1cm近くもなる気持ちの悪いやつだ。草むらを歩くと、いつの間にか沢山くっつく。たいてい、動物のよく通る獣道のような開けた場所の草の先に待ちかまえていて、通りかかるヒトにも付着する。食いつくと痛くも痒くもないが、皮膚に食い込んで簡単にはとれない。厄介なのは、ボレリア*Borrelia burgdorferi*というリケッチアを持っていて、ライム病という病気になる場合がある。ライム病の初期症状は風邪の様な感じで、刺された部位が赤くなって移動する慢性移動性結節性紅斑という症状で、ここで気付いて抗生物質を服用すれば治るが、放置すると慢性化して脳が犯され大事に至る。ゴル

フ場でやられることが多く、日本でもたまに脳症が発症して問題となる。日本のツツガムシ病と似た病気である。蚊も多いので強力な虫除けスプレーが必須で、服は明るい色の服を着て最後に服に付着していないかじっくり確認する必要がある。私も家族も何回か刺されたことがあるが、発症はしなかった。発症率は10%くらいで低いという。くつついてもすぐ食いつくのではなく、暗いところに入っていったりして、しばらくしてから皮膚の柔らかかなところに食いつく。何故刺されるかという、網などに付いて家や車の中に持ってきてしまうと、後日家族が食われるのである。採集時には避けられない、しぶとい嫌な虫である。

東海岸の少し内陸にはアパラチア山脈があり、この周辺は良い採集地である。東海岸特有の蝶の多くが住んでいる。蝶の数も多い。ペンシルバニア州の東海岸周辺ではほとんど絶滅したテイオウヒョウモン *Speyeria idalia* がいまだに見られる場所がある。とある草原でこの大型のヒョウモンを初めて発見し、全速力で追い、ようやくの思いでネットに収めたときの感動は忘れられぬ思い出である。また、やや遠いがウエストバージニア州まで行くと、ここは日本の山梨県のような場所で良い蝶が多い。オレンジはないけれども、クモマツマキチョウの近縁であるオリンピアクモマシロチョウ *Euchloe olympia* を見ようとするとこの辺りまで出かけなければいけない。ポイントはかなり狭いようで、発生時期も短いので貴重な種であろう (図4)。また、アメリカカバイロシジミ *Glaucopsyche lygdamus* のアパラチア山脈亜種 *ssp. lygdamus* もこの辺りがポイントだ。帰国間際になり意を決して、一泊二日で行ってきたが、この2種を採れた時は本当に嬉しかった。初夏になれば、北米を代表する美蝶であるダイアナヒョウモン *Speyeria diana* もいるらしい。採れなかったの



図4：ウエストバージニア州のオリンピアクモマシロチョウの産地。クモマツマキチョウと同じように早春に局所的な発生をする。見つけるのは結構大変だった。

は、ウエストバージニアスジグロシロチョウ *Pieris virginiensis* とアパラチアチャマダラセリ *Pyrgus centaureae wyandot* である。スジグロシロチョウごとくと思うだろうが、実はこれが東部特産で多分希種であろう。結局ポイントもつかめずに終わった。後者も環北極圏の蝶で減少が著しいという。

ニューヨークも北部はカナダに接し、マンハッタンからは遠く車の日帰りはできない。かつて1932年および1984年の2回、レークプラシッド Lake Placid で冬季オリンピックが行われた場所である。寒冷で自然もよく残っており、環北極圏の蝶が多くなり、日本の高山蝶の仲間が出てきて興味深い。隣のニューハンプシャーやメイン州も蝶が多く良いところだ。この辺りは湿地が多いが、蝶の時期には蚊が異常に多いので強力な蚊除けスプレーを全身にかけないと採集どころではなくなる。汗のため1時間もしないうちに効力が弱まるのでネットと共に必携である。タカネキマダラセリ *Carterocephalus palaemon* や小型ヒョウモン、タカネヒカゲの仲間 *Oeneis jutta* が分布している。日本の高山蝶が好きな向きにとっては気になる場所である。州都アルバニー付近には、メリッサヒメシジミ *Lycaeides melissa* の東部亜種 *ssp. samuelis* がいる。西部亜種 *ssp. melissa* は普通種なのだが、おそらく別種であろうと言われている。現在では、ほとんどの産地で絶滅に瀕しており、ニューヨーク州で唯一の保護種となっている。許可がなければ採集もできないし標本も持てない。因みに米国の保護種の多くは、西海岸のカリフォルニア州に集中している。海岸部の特化した気候区に多くの特有種を擁しているためである。そして、その中心地がサンフランシスコという大都会として開発されたので、絶滅に瀕している種が多い。米国



図5：オオカバマダラの吸蜜。晩秋に数を増して、海岸沿いに南下してメキシコへ越冬に行く。米国を代表する蝶。

で唯一絶滅した蝶は、Xerces Blueといい、実はアメリカカバイロシジミ *Glaucopsyche lygdamus* の亜種 *ssp. xerces* である。広大な米国では、山間部の蝶は保護の必要性は低いが、平野部や海岸部では問題が生じている。

米国で楽しいのは蝶園である。子供だましというなかれ。米国では、熱帯の蝶は生きたまま輸入できるらしく、温室の中では、モルフォチョウやフクロウチョウ等、標本でしか見たことのない蝶が飛んでいる。採ることはできないが、ゆっくり見るのは面白いし、写真を撮るのも楽しい。カナダ側のナイアガラ滝Niagara Fallsの近くに素晴らしい蝶園があり、世界中の熱帯の蝶が見られる。フロリダ州フロリダ市City of Floridaやニューヨーク市のブロンクス動物園にもある。ここで付け加えると、米国の博物館で蝶の標本を見ることは難しい。多くの博物館では、テーマに合わせて展示をしており、ただ標本を並べるような展示はしていない。巨大なアメリカ自然史博物館にも標本展示はないし、有名なワシントンのスミソニアン博物館Smithsonian Institutionでも標本はトイレの前の隅に表示もなく4箱ほど置かれていただけであった。あらかじめ手紙などで見せてもらえるように約束しなければいけないようである。

私のいた病院はコーネル大学Cornell University医学部の附属病院だったが、この大学、実は昆虫学では有名なところらしい。例えば、標本箱の規格として主に2つあるのだが、1つがコーネル規格と呼ばれ、米国国立博物館規格と共に通用している。ただし、他の学部のキャンパスは北部のイタカIthacaという町にあるので私は行けなかった。近ければ、いろいろと見ることもできたのにと少し残念であった。しかし、これも虫好きのなせる縁だろうか。

米国の蝶採集について、一般的な感想を書き留めておきたい。はっきり言って、蝶に対する興味は低い感じがある。このため、僻地での蝶の生態は未調査のことが山積している。愛好家人口も多くない。良いポイントに到達しなかったからかもしれないが、米国で出会った同業者はカリフォルニアの山で会ったただ一人だった。これが幸いしてか蝶採集に対する圧力も強くない。採集の善し悪しよりも鹿と間違えて撃たれないように気をつける方が大切である。北米の蝶は、あまり美しくないときれい人気は低いが、素晴らしい観光地と採集がセットになるということは、もっと強調されても良い。テロ後の観光低迷の折、安い値段で米国観光ができる上に、採集までできるということになれば、誘惑される方もおられるのではないかと。多少、リスクは伴うけれども・・・。

あの忌まわしいテロ事件がこの文章を書くきっかけになった。最後に、マンハッタンで犠牲になった多くの方々へ追悼の意を表す。

《くじ いちえい 〒920-1161 金沢市鈴見台3-1-3》

大根に産まれた怪しげな卵塊

オオモンシロの卵塊とのふれこみだったが、ハバチの様な幼虫が孵化。初めての代物であり、こんな幼虫かと飼っている、幼虫が真っ黒に変身。ゲゲくこれってカブラハバチそのもの。それでもしっかりと北海道産を羽化させた。

アサギマダラ続々と再捕獲

今年是全国的にアサギが少なく、各地のマーキング数は軒並みダウンしていた。ところが、再捕獲数は過去最高になる見通しで、石川県発のアサギも十個体が県外で最捕獲されている。これは、アサギ全数に対するマーキング割合が増えたためか、それともマーカが増えたためか。

「石川の野鳥」一〇〇号発刊

日本野鳥の会石川支部報の同号には、今や海外からも多くのバードウォッチャーを引きつける舳倉島発見のいきさつが、矢田氏の熱い思い出と

なつて語られている。それから二十六年、今年は「舳倉島蝶類調査の夜明け」になるうとしていいる。

季節限定泥沼ゲンゴ採集法

水が抜かれた秋のため池、ヘドロの海では網が使えない。いかにしてゲンゴを採るか。ヘドロに踏み込み、小さく丸く踏み荒らすと泥プールができ、しばらく眺めているとゲンゴが浮かび上がってくる。この方法で、奥能登ゲンゴ隊はマルコガタとシャープを手づかみした。

放蝶と再捕の不思議な関係

九月の宝達山、二十三日は五十七頭放蝶し再補ゼロ。二十四日は午前中三十一頭放蝶し再補ゼロ。午後は二十頭放蝶し再補二頭。二十六日は午前中十頭放蝶し再補一頭。午後は十一頭放蝶と再補ゼロ。二十四日午後から二十六日午前までの再捕獲率は、なんと十頭に一頭。この三頭の再捕獲地は、三重、徳島、喜界島

といずれも遠方。良い風が吹いたのか、放蝶時期が遅いほど再捕獲されやすいのか。

ひそかに忍び寄る遠視の影

久しぶりの採卵、ミズナラ、サクラ、クロウメモドキ、何処に付いているかは見当が付き、ほいほい採れる。しかし、間違いないのかと思つた瞬間、卵は丸い固まりと化し、模様は全く見えなくなった。

輪島でツマグロヒョウモン確認

県内で広く観察されるようになるかと思われたツマグロだったが、今年は金沢より北では、思うように観察できな。ところが、十月末になつて輪島で新成虫が観察された。これつて三年前のパターに似ているような気がする。

「石ひよし」西表島で再捕獲

日吉氏が輪島で放蝶したアサギマダラ、今度は西表島で再捕獲された。移動距離も最長ながら、生存日数は過去最長ような気がする。西表で

は、タイワンアサギかと思つて再捕獲されたらしいが、日吉氏は放蝶の一時間前にタイワンアサギを採っている。

例会の記録

十月四日(木)城南管工一階にて八時から開催。

北海道から帰つたばかりの細沼氏、大量のおみやげを持って現れた。ビカビカのオサムシ、うじゃうじゃのオオモンシロ幼虫、大根に産まれた怪しげな卵塊等々、土産話をしながら、出席者に大盤振る舞い。

その他の話題は、今年はずつマグロヒョウモンが少ない、ホリイコの採集は最終日に限る、ビール地獄にはまつてしまった、次の休日は奥能登ゲンゴツアー、燈火に來たゴイシモモブト、採集形態いろいろあれど、熊と間違えられて石を投げられた、などなど。

参加は、矢田、生田(省)、大脇、細沼、中西、松井、井村、指田の八人。

【表紙デザイン…小幡英典】

会員の動き・しゃばの動き

足下には潰れたイモムシケムシ

玄関先で、イモムシケムシが踏みつぶされて中身が飛び出していた。発見者は顔をしかめるどころか、ニヤリと不気味な笑みを浮かべ、辺りに視線を配った。視線が止まり、手を伸ばした先には虫食いだらけのスミレと蛹が。イモムシケムシの背中には一本の赤い筋があり、ついに我が家にもツマグロヒョウモンがやってきたと喜ぶ松井氏であった。

宝達山はアサギマダラの季節

九月の宝達山は、アサギマダラの季節だったが、今年の様子がおかしい。最高気温が二十度に届かない日ばかりで、アサギの飛翔がほとんど見られない。二十二日にマールキング会を計画していたが寒くて延期になった。

宝達山でマールキング会

順延となったマールキング会は、快晴無風の好天に恵まれたが、午前中の最高気温は十四度で飛翔はゼロ。午後からは十七度まで上がり、なんとか五十七頭をクリア。金沢からは四グループが参加し、京都の藤井さん一家、三重の多田さん夫妻も飛び入り参加。

イチモンジに化けちゃった

チャバナセセリがせつせとシバに産卵していた。よく見れば、孵化した幼虫もいたので、採集してきたが、大きくなると、みんなイチモンジセセリになっちゃった。

オオモンシロはいつかえる

大型飼育容器四箱にうじゃうじゃいたオオモンシロの幼

虫。管理不行き届きやコマユバチにやられて、蛹化したものわずか。ついで寄生蠅にやられて、生蛹は極わずかとなった。羽化したとの声は聞こえてくるが、手持ちの蛹はいつかえるのやら。

「六本脚」で翔の販売開始

インターネット上で、表紙や目次の画像を使い、昆虫文献の紹介・販売をしているお店「六本脚」、翔のバックナンバーもここで扱ってもらったことになった。
<http://kawano.co.jp/toppon-ashi/>

能登北部のマルマルゲンゴツァー

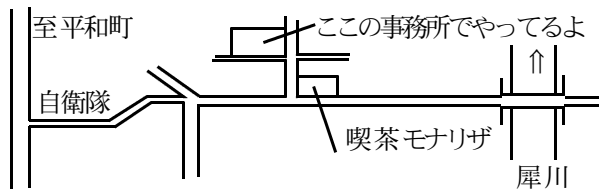
マルマルゲンゴを確認せんと、能登北部は平地のため池を巡ったツアー一行、ナミゲン、クロゲン、マルガタと確認したが、最後の一種は姿を見せず。「ただ長」しか用意しなかったツアー一行、マルコガタを確認しないことには帰れないと、パンツ姿で深みに挑み、あぐくは腰まで浸かってマルコガタを確認した。

翔 153号

Tobu 2001年12月1日発行
百万石蝶談会

<http://member.nifty.ne.jp/hakusan/>
金沢市大場町東871-15 松井方
☎920-3121 ☎076-258-2727
郵便振替 00750-8-562
印刷 小西紙店印刷所

例会は偶数月・5月・7月の第1木曜日8時から
TEL参加もOKです (076-244-3318)



目 次 (153号)

松井正人：石川県の低地および能登丘陵周辺のゼフィルス	1
日吉宏朗・日吉南賀子・日吉芳朗：	
2001年の輪島市および鳳至郡門前町とその周辺におけるゼフィルス	3
井村正行：石川郡美川町でアカシジミを目撃	5
竹谷宏二：白峰村市ノ瀬でムモンアカシジミを目撃	6
奥素八子：石川県小松市の雑木林で目撃したチョウ	6
嵯峨井淳郎：自宅の庭でウラナミアカシジミを観察	6
久慈一英：ニューヨークへ思いを寄せる	7
編 集 部：会員の動き・しゃばの動き	14